

## 県議と住民が課題探る

宍粟・千種 学校教育で意見交換



県議会議員が地域住民と地域の課題を探る「意見交換会」が18日、宍粟市千種町千草の千種高校であった。写真。千種町の子育て支援グループのメンバーらと県議12人が、過疎地域の学校教育の現状や課題などについて意見を交わした。

県議の声を県政に反映させることを目指し

昨年からは、県議会が県内各地で開いている。この日は、地域一帯となった子育てに取り組む保護者らのグループ「ちくさっ子を育てる会」など3団体のメンバーら8人が出席。少子化対策として導入された千種中・高の連携教育では、同グループなどの取り組みで、子どものいない地域住

民も学校行事に参加しており、「町おこしにもつながっている」と紹介した。

また、千種高校に町外から通う生徒の多くが、家を早く出するため弁当を持参できない現状を訴え、「高校での学校給食も検討してほしい」という地元の要望を県議に伝えた。

（鈴木雅之）